

ユニオン

2023年4月15日 発行

2023年 春号

<第57号>

編集・発行/社会福祉法人ワークスユニオン 代表/池田直樹 〒551-0001 大阪市大正区三軒家西1丁目17-18 TEL06(6556)0881

特集

ワークスユニオン家族支援
(移動支援・居宅介護)

「僕の土曜日の予定」

僕は毎週土曜日に剣道でいそがしいです。剣道は七年前から始めました。母のすすめで剣道場に見学に行きました。しはんにすすめられて、始めることになりました。練習は型と試合があります。僕は型が好きです。七年間剣道をできたのは、しはんが毎週土曜日に来るようにさそってくれたからです。練習は毎回同じ内容ですが、これからは新しいことにもみんなでチャレンジしてみたいです。

剣道以外にも『翼』の演劇、それにパソコン教室にも行っています。コロナで中止の時以外は休まず参加しています。どれも好きとか嫌いとかはとくにありませんが、予定があるので行っています。そういうことです。それが僕です。

それはグループホームに住んでも変わっていません。

檜本 晃治

ワークスユニオン家族支援 その人らしい暮らしを支える

ワークスユニオン家族支援では、利用者さんの休日を充実させるために移動支援（ガイドヘルパー）や、日々の暮らしを支える居宅介護支援を行っており、最近の利用者さんの様子をご紹介します。

ガイドヘルパーの支援は、大阪市立科学館へ出かけた利用者さんが楽しみにされているサービスの一つです。緊急事態宣言等の発令により、外出自粛を余儀なくされ窮屈な日々を過ごさないとはいかない時期もありましたが、少しずつ規制も緩くなったため、外出活動が再開できるようになりました。季節のイベントを楽しんだり、話題の映画を鑑賞したりと、利用者さんそれぞれが活動を楽しんでいます。

Aさんは普段から言葉で意思表示をされることが少なく、ジェスチャーや表情を読み取ることが多い利用者さんですが、外出前は満面の笑みで待っておられ、楽しみにされていることがすぐ分かります。ある日、

る街並みを興味深く見ておられたそうです。到着後はシーサーの色付け体験をしたり、沖縄料理を食べたりと2泊3日で沖縄を満喫されました。休日の余暇活動とは違った体験ができ、利用者さんの世界が広がる良い経験だったと思います。

大阪市立科学館へ出かけた際、3色の交通信号機の展示の前で歩みを止められ、じっと見られることがありました。信号の色を操作することが出来たため、3色変えて灯してみると、『黄色』の時に目を輝かせるようにジッと見入られているのが印象的で、普段とは違った一面が垣間見えたひとときでした。

Bさんはグループホーム（以下GH）の個人旅行で職員ヘルパーと沖縄旅行に行き機会がありました。保護者さんからは「飛行機に乗った経験が少なく、（ご本人が）不安にならないかな？」との声もありましたが、そんな心配をよそに、機内では流れゆく雲や眼下に見え

的ですが、入浴のきつかけを作る目的で支援を行う事例もあります。

Cさんは入浴を面倒くさがってしまい、何日も入浴できていないことがありました。ヘルパーが週に一回入浴支援に入ることを二年近く継続することで、ご自身で曜日を決めて一人で入浴する機会が持てるようになりました。支援を通じて一人で行えることが増えたのは嬉しく思います。

してもらうことも大変でしたが、引越し前の教訓を活かして、Dさんらしい暮らしを満喫されています。



ワークスユニオンの居宅介護支援では、主にGH利用者さんの入浴や食事介助、通院の同行や一人暮らしの方のヘルパー派遣など、利用者さんの暮らしを支える支援を行っています。入浴介助は、身体を洗うなどの直接支援が大きな目

ご自身の希望でGHを退去して一人暮らしをされているDさんへの支援では、近隣のトラブルが起きてしまい、引越しを余儀なくされることもありました。職員やヘルパーが定期的に訪問して支援を行っていましたが、GHと違って職員が常に傍に居ないこともあり、管理会社や近隣住民の方に対する障がい特性の理解の促しや、一人暮らしの利用者さんへの支援の難しさを感じた出来事でした。ご本人に転居の理由を理解

一般的に、ヘルパー支援はタイムケアの業務だと思われがちですが、ワークスユニオンの支援は、何らかの形で日々継続して関わるので、利用者さんを深く知ることができるのが醍醐味と考えます。

時には利用者さんが失敗したり、つまずいたりすることもありますが、そんな時は一緒に立ち止まり、今後の暮らしを一緒に創ってほしいと思われたいです。

（高橋）

ゆるスポーツ

フェスティバル



今年1月に行われたゆるスポーツフェスティバル(以下ゆるスポ)も法人の行事として定着しつつあり、利用者さんからも「ゆるスポはいつあるのか」と問い合わせがあるほどになってきました。

コロナ禍で3年ぶりの開催となった今年のゆるスポは、座席の間隔をあける、窓を開けて換気をする、マスクの着用、競技も距離があるものなど、基本的な感染症対策に加え、接触する時間を減らすため、午前中で終了するという対策を取りました。ゆるスポの開催に当たって午前と午後の2部制にするという案もありましたが、全員で行った方が盛り上がるだろう、ということ、参加者全員で午前みの開催としました。

競技は準備体操から始まり、ラケットリレー・菓子とり競争・オセロゲーム・フラ

イングディスク、レクリエーションとしてじゃんけん大会を行いました。

よいパネルまで返すなど、熱中していました。

フライングディスクもディスクを入れる穴が小さく、行事担当も難しいと思っていました。8投中4投入った利用者さんもあり、自分のチームへの応援が更に盛り上がっていました。

新型コロナウイルスの影響で1つの事業所が前日に急遽欠席する事になりましたが、久しぶりに他事業所の皆が集まり、体を動かし、チーム別で競争することができた事はとてもうれしく思います。また、来年度も開催する予定ですので楽しみにお待ちください。(川口)

中でも盛り上がりを見せたのはオセロゲーム。2チームに分かれて、床に置かれたパネルをひっくり返していく、最終的にチームの色の方が上を向いている数が多い方が勝ちになるゲームです。説明を受けて始めはどうしたらいいのか分からない様子でしたが、いざ始めてみると他の利用者さんの真似をして、一生懸命に置かれているパネルを次々とひっくり返すことができました。ひっくり返すことに集中して、返さなくて

ゆきあそび



今年2月、びわこ箱館山スキー場に行って来ました。雪不足や新型コロナウイルスの影響で開催できなかった年もあって、実に4年ぶりの開催となります。

そもその始まりは雪に触れる機会がない利用者さん

に楽しんでもらいたいといった思いからでした。回を重ねるごとに参加される顔ぶれが入れかわることもありましたが、毎年参加を希望される方もいます。ゆきあそびの面白さを知った利用者さんは、毎年楽しみにされていて、開催ができなかった昨年などはとても残念そうでした。私も数年前に初めて参加したときには、童心に戻って楽しかった記憶があります。

今回のゆきあそびは、前日は雨、当日は晴れて気温も高く、防寒対策で着込んだなかでは暑さを感じることも。ゴンドラに乗っている時には日光が差し込み、

夏山に向かっているのかと思うほどでした。山頂まで行くと雪はしっかりと積もっていて、スキーやスノーボードをしている方が、たくさんいるなかで、私たちは広場で各々にソリ滑りをして楽しみ、チーム対抗での雪合戦、宝さがしゲームをしてきました。

ある人が、ソリで滑った後、そのまま寝転がったまま上空を見上げていた姿がありました。おそらく開放的な気分浸っているのだろうとすぐにわかりました。参加した皆が自然と笑顔になる雪山でした。

(野崎)



若かりし頃の私は、「おしやれ」に氣遣っていた。

アイビールックは嫌いだっただけ、昭和の新御三家の西城秀樹などと同世代の私は、常にヨーロッパアンスタイルで、ヒールの高い靴を履き、パンタロンを愛用していた。

お気に入りの店が何件かあり、気に入った服を見つけたら、高いと思っても買ってしまったので、毎月収入の三割程度を衣服代に費やしていた時代があった。

結婚してからは、「小遣い制」となり、財源も乏しく仕事も忙しくなったので、「おしやれ」に氣を遣う余裕は全くなくなってしまったのだが、……。

ある保護者の方は、「子供が「だらしなく」見られたくないので、子供の身だしなみや服装にはいつも氣遣いをしていくとのこと、いつも整った衣服を季節ごとに用意されている。

職員には、保護者の「子供がだらしなく見られたくない」との想いを受けて、身だしなみや服装に、氣遣いをしてほしいと思う。決して、高級品やおしゃれな物の提供を要求しているのではなく、利用者が「だらしなく」見えないように整えて欲しいのだ。

若い皆さんは、ダメージジーンズもファッションと思われられるかもしれないが、利用者のジーンズに穴が開いていたりするのは、いただけない。

担当利用者の身だしなみや衣服だけでなく、ご自身の身だしなみにも氣配りのできる職員集団であって欲しいと考える。

職員紹介

大槻 都子 (6) ワークス歩

前職は就労継続支援A型事業所で勤務していました。が「利用者さんが頑張り過ぎなくて良い支援」に興味があり入職しました。

作業中の利用者さんへの声掛けのタイミングが難しいと感じています。一人一人の個性や特性、朝の様子を思い返して考えている内に機会を逃してしまう事もしばしばあります。日々葛藤している彼女は休日には子供とランチへ出掛ける事がリフレッシュになっています。また「東京デ

ズニールランド&シー」の大ファンで、コロナ禍前は園内での滞在時間を確保する為に夜行バスで往復し、一杯楽しんでいたそうです。

西 雅弘 (1) 匠

以前は居酒屋の店長やセラピストをしていましたが、コロナ禍で仕事が減って大変だった時に、ワークスユニオンに見学に来ました。ここで働きたいと運命的なものを感じ、一念発起してヘルパーの資格を取得し入職しました。

勤務してから約一年になります。いろいろなアプローチをして利用者さんと関係を築くのが楽しいのとことです。一年間の経験を生かしているいろいろなことをやってみたいと今後の抱負を語ってくれました。

パソコンゲームや漫画が趣味で、休みの日はそれで一日過ぎてしまうそうです。おすすめのものがあれば教えてください。

(助野・松田)

編集後記

▼唐突ですが、サブスクリプション(以下サブスク)をご存じでしょうか?定期的な支払いをすることで、商品やサービスを利用するビジネスモデルを指します。古いもので言うと新聞の定期購読もサブスクになります。▼現在では、多くの企業がサブスクビジネスを展開しており多種多様なサービスをしています。▼毎月お香が届く物や絵画・皮靴・日本酒・花・野球のバット・謎解きができるものもあります。▼最近聞いて一番驚いたサブスクは、京都より自宅まで職人が目利きした塩干物・西京焼きなどが4千円ほどで届くそうです。魚好きには、たまらないのではないのでしょうか?▼年齢を重ねても新しい文化に触れる機会を持ち、知るということを意識して生きていきたいと思う今日この頃なのであります。

(S)